授業改善推進プラン

武蔵野市立第三小学校

《１年　国語科》

児童の学習状態の様子･傾向	指導方法の課題分析	授業改善のための具体的方策
〇観点別分析 （１）「国語への関心・意欲・態度」 ひらがな、カタカナの学習に意欲的に取り組む児童が多い。教科書の物語文の音読にも意欲的に取り組み、進んで暗唱をしている。図書の時間を楽しみにしている児童も多く、集中して読書をしている姿が見られる。学習を振り返って、できるようになったことや分かったことを考えることができる児童は少ない。 （２）「話す･聞く能力」 「話すこと」では、声の大きさや速さ、話す順序を考えて分かりやすく話すことについて、個人差がある。１学期に行った「おもいだしてはなそう」の学習では、こちらが話型を示して自分の出来事を発表する活動を行い、概ね全員が発表することができた。友達の発表を聞いて、質問したり感想を言ったりすることができる児童は少ないが、「聞くこと」の姿勢は養われつつある。 （３）「書く能力」 自分が経験したことや感じたことを、短い文で書けるようになってきたが、個人差は大きい。書きたいという思いはあるが、考えを言葉で表現することが難しく、書きたいことをまとめられなかったり、手が止まったりしている児童もいる。誤字脱字や、長音、拗音、促音、助詞（は、を、へ）の使い方の定着は不十分で、今後も継続した指導が必要である。 （４）「読む能力」 言葉のまとまり、リズム、繰り返しなどに気を付けて音読できる児童が多いが、個人差は大きい。物語文を読む際、場所や人物、出来事に注意して読むことで、大体の内容を理解することができている。 （５）「言語についての知識・理解・技能」 ひらがなはほぼ定着してきているが、カタカナは十分に定着していない。字形に気を付けて書くことについては、個人差が見られる。長音、拗音、句読点などの表記に関して、定着が十分ではない。	**〇観点別に指導していること** （１）「国語への関心・意欲・態度」 文字学習について、言葉集めや指書き、空書きなど多様な活動を取り入れ、めりはりをつけて行っている。音読では、リズムよく読ませたり、交代して読ませたりして楽しんで読めるようにしている。教室での読み聞かせや図書室での読書等、読書に親しむ時間を確保している。各単元の終わりに、学習したことを全体で振り返る時間を取るようにしている。 （２）「話す･聞く能力」 「声のものさし」を掲示し、声の大きさを意識させたり、事柄を順序よく話したりするために、話型を示して指導している。聞くことに関しては、話の聞き方「あいうえお」を示して、話を集中して聞く姿勢を養うように指導している。 （３）「書く能力」 国語のノートや朝顔の観察カードなどを用いて、簡単な文章を書く機会をもつようにしてきた。書く内容に関しては、事前に全体で話し合い、思い出させることで、より内容が豊かになるようにしている。また、書く活動の際には、個別指導も適宜行い、正しく文を書けるようにしている。 （４）「読む能力」 物語文では、叙述や挿絵を基に、場所や人物、出来事を整理しながら読むようにした。動作化を取り入れることで、場面の様子や登場人物の行動について想像を広げながら読めるようにした。説明文では、段落ごとの内容や構成を丁寧に確認しながら学習を行った。 （５）「言語についての知識・理解・技能」 字形や表記については、その都度直したり、なぞったりして正しい字形や表記を確認できるようにしている。書く姿勢や鉛筆の持ち方についても継続的に指導をしている。	**〇観点別授業改善について** （１）「国語への関心・意欲・態度」 児童が主体的に学べるよう動作化を入れたり、教材の提示を工夫したりして、興味関心が高まるようにしていく。毎時間のめあてを明確にし、授業や単元の終わりに振り返りの時間を確保することで、児童が学んだことを自分で考えることができるようにする。 （２）「話す･聞く能力」 「話すこと」ついて、ペアやグループ、全体とみんなの前で話す機会を増やしていく。その際に、引き続き声の大きさを意識させ、話型を示すことで事柄の順序を考えて話すことができるようにする。友達の発表を聞いて、質問したり感想を言ったりする場面を設定することで、「聞くこと」の姿勢をさらに養う。 （３）「書く能力」 国語のノートや観察カードなどを用いて、文を書く機会を引き続きもつようにする。教科書の例文を参考に、書きたいことを整理し、構成を考えて書かせる。書いた文章を読み返し、句読点や字の間違いに気付き自分で直すことができるようにする。 （４）「読む能力」 物語文では、場所や人物、出来事について叙述を基に考え、全体の構成を捉えることができるようにする。動作化や音読劇を取り入れ、登場人物の行動や心情についてさらに想像を広げて読むことができるようにする。説明文では、接続詞や繰り返しの言葉に気を付けて読むことで、時間的な順序、事柄の順序などを考えながら読めるようにする。 （５）「言語についての知識・理解・技能」 字形や表記について、その都度指導をし、定着を図る。カタカナや漢字の学習では、止め、はね、はらい、書き順に注意して指導をする。また、復習プリントを繰り返し行い長音、拗音、句読点などの定着を図っていく。

授業改善推進プラン

武蔵野市立第三小学校

《１年　算数科》

児童の学習状態の様子･傾向	指導方法の課題分析	授業改善のための具体的方策
〇観点別分析 （１）「算数への関心・意欲・態度」 算数に対して、意欲をもって活動する児童が多い。加法や減法では、算数ブロックを使って、進んで習熟した。文章問題作りを楽しんで行った。 （２）「数学的な考え方」 簡単な加法や減法の計算の答えを、すでに出せる児童もいたが、多くの児童が集合の概念や式の意味を考えるのが初めてで難しさを感じていた。文章題では、ブロックを動かしながら、計算や式と対応させて考えてきたが、多くの児童はブロック操作に慣れ、簡単な合併や増加、求残についてであれば、スムーズにブロックを動かして正しく考えることができた。一方、求差についてはブロック操作が難しく、立式でつまずく児童も見られる。また文章題では、文章を正確に読み取り、立式するのに時間を要してしまう児童も見られた。 （３）「数量や図形についての技能」 １０までの数について、合成、分解が素早くできるようになってきたが、数の概念の理解が十分でない児童も数名いる。加法や減法については計算スキルに取り組み、速さと正確さが身に付いてきてはいるが、個人差が大きい。 （４）「数量や図形についての知識・理解」 ２０までの数については、ほとんどの児童が、数の書き方や構成、順序などを正確に理解できている。その一方、加法や減法についての文章題では、加法か減法かを判断して適用するのが苦手な児童も見られた。また、＝（イコール）や答えの単位を付け忘れてしまう児童が多かった。	**〇観点別に指導していること** （１）「算数への関心・意欲・態度」 身近なものやイラスト、実際の物を使ったり、ゲームを行ったりしながら、児童が楽しみながら学習できるような活動を取り入れた。 （２）「数学的な考え方」 具体物を提示した後に半具体物（ブロック）を動かす活動を多く取り入れ、数の合成や分解、加法や減法の意味を理解させてきた。特に求差は何度もブロックを用いて操作する活動を取り入れたが、求残との違いを正しく捉えて動かすことが難しい児童もおり、課題である。 また、問題場面を絵で示したり、図式して板書したりすることで具体的なイメージをもたせ、式を考えることができるように指導してきた。 （３）「数量や図形についての技能」 ２０までの数字を正しく読んだり書いたりできるようにプリント等を用いて繰り返し学習した。数の合成・分解にもブロックやカードを用いて繰り返し取り組んだ。また、加法や減法についてもプリントや計算カードなどを繰り返し行い、素早く正確に計算をすることができるように取り組んだ。 （４）「数量や図形についての知識・理解」 ２０までの数は、ブロックを使いながら絵の上に並べたり、そこから１０のまとまりを作りながら分かりやすく並べ直したりするなど、実際に自分で動かしながら習熟してきた。また、加法や減法は、問題文を見て、減法に迷う児童も見られた。加法や減法の意味を理解できるよう、問題場面に合わせてブロックを動かし、近くの席の友達と操作している様子を見合う活動を取り入れた。	**〇観点別授業改善について** （１）「算数への関心・意欲・態度」 ２学期からは習熟度別指導を中心に学習を進め、個に応じた指導を行っていく。その中で、「わかる」「できる」という体験を積ませることで、達成感や喜びを感じ、関心・意欲を高められるようにしていく。また、授業や単元の終わりに振り返りの時間を確保することで、児童が学んだことを考えることができるようにする。 （２）「数学的な考え方」 繰り上がりや繰り下がりのある加法や減法でもブロックを実際に操作する活動を取り入れていく。さらに、友達同士で自分の考えを説明したり、紹介し合ったりできるように指導を重ねる。文章題については、要所に線を引かせたり、文を繰り返し読んだりして、式の意味を考えながら文章を読ませる。また、ブロック操作をしながらスムーズに立式できるように指導していく。習熟度別指導では、１つの問題をクラス全体で考えたり、友達同士で説明し合ったりするなど、各クラスの実態に応じて手立てを工夫する。また、長さや量、広さについては、比較する体験活動を取り入れ、よりよい測定方法を考えられるように指導していく。 （３）「数量や図形についての技能」 計算スキルやプリントなどを用いて、家庭学習や朝学習の時間にも繰り返し学習を積み重ねていく。また、課題のある児童には、個別に指導したり、課題を工夫したりしながら指導していく。長さや量、広さに関しては、実際に測定する活動などを取り入れながら、豊かな数量感覚を身に付けられるようにする。 （４）「数量や図形についての知識・理解」 繰り上がりや繰り下がりのある計算では、１０のまとまりに着目することを重点的に指導していく。そこで、繰り上がりと繰り下がりの理解を深められるように、ブロック操作をしながら言語化を図るようにして指導していく。今後も、加法・減法の意味を操作を通して理解を図っていく。